

学力向上推進員	委員	校長	坂本和裕	教務主任	江口 文	2年主任	貴田悦子
山田 泰史		教頭	長尾 彰	研修主任	八木知加	3年主任	和泉淳子
		教頭	木下敦志	1年主任	小浜かおり	各教科主任	



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 基礎的・基本的な知識・技能の重要性については理解しており、定着をめざす生徒は多い。	・教科を問わず、教科書に書いてある内容を正確に読み取ったり、それらをもとに考えをまとめたりすることができる。	・ノート・ワークシートの確認やテストで、読み取りや表現の項目で「おおむね達成している」と評価できる生徒の割合を、各クラス80%以上にする。			
課題 基礎的・基本的な知識・技能の定着率が低い者が多く、正確に文章の本意や資料を読み取ったり、それらを活用して考えをまとめたりする力には課題がある。	具体的方策(教員の取組) ・十分な教材研究と授業構想のもと、教科書内容を正確に読み取らせるために時間を費やしたり、考えをまとめさせる学習活動を取り入れたりする。 ・ICT活用をすべての教職員が取り入れ、授業のユニバーサルデザイン化を図る。	・ノートを効果的に活用したり、T2の教員が積極的に机間支援を行ったりすることで、基礎学力の底上げを図る。 ・ICT機器に関する研修等で取り組みを共有し、教師間の「意識格差」の是正を図る。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業での意見交換や話し合い活動に積極的に取り組み、多様な角度からの見方・考え方を深めようとしている。	「わからないからこそ考える」ことの重要性を理解し、授業においても黙々と考え込んだり、他者の考えに耳を傾けて考えを深めたりすることができる。	・ノートやワークシートで考えの過程を記録したり、グループワークでは意見交換に意欲的に参加したりしている。			
課題 わからない事に対して考えることを放棄してしまう生徒が多い。	具体的方策(教員の取組) ・考えることが苦手な生徒へのサポート(声かけや手順の示唆)を充実させる。 ・グループワークの手順を明確に示すことで、学習者への取り組み方や考える対象を正しく把握させる。	・教科間での得意・不得意を把握することで、多様なアプローチを試みる。 ・手順を視覚的に示したり、簡潔な発問を提示したりする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習、生活、あらゆる面で素直にアドバイスに耳を傾け、行動に移すことができる。また学習面においては自己の弱点を把握し、改善したいという思いをもっている者が多い。	・授業をはじめ、生活のあらゆる場面で「学ぶこと」の意義と楽しさを実感し、自ら「学びたい」と感じ、学びに向かうことができる。	・家庭学習や読書の習慣が定着し、自ら学びに向かう生徒の割合を80%以上にする。			
課題 自らの力の伸びを実感することができず、達成感を味わうことができない者が多い。	具体的方策(教員の取組) ・「がんばりノート」の効果的な使用方法を適宜検討し、個々の状況に合わせた学習方法の提供を行う。 ・授業で多様な学習活動の形態を取り入れ、学び合う場を確保する。	・各クラス、教科の視点からの案を出し、共有する。 ・意図的な人数設定や指示の明確化を図る。		評価	次年度における改善事項

令和2年度 学力向上ロードマップ

